

翔

No.174

June

2005

能登半島でシータテハの生息を確認

松井正人

石川県鹿島郡中能登町（旧鹿島町）石動山と珠洲市清水藤尾でオヒョウからシータテハの卵または幼虫を採集したので報告する。

2005年4月16日 鹿島郡中能登町石動山 6卵（オヒョウ） 松井正人

2005年5月5日 珠洲市清水藤尾 5幼（オヒョウ） 松井正人

石動山の頂上から北東部へのびる溪谷には、オヒョウやトチの大木が何本もあり、この谷の標高320m付近にある河畔のオヒョウ1本から採卵した。持ち帰った卵は、7日後の4月23日に孵化したので、採集時は産卵直後だったと思われる。

藤尾は、能登外浦の急峻な地形にあって、溪谷に沿って何本ものオヒョウの大木があり、海岸から2km程入った標高120m付近の河畔のオヒョウ2本から初齢幼虫を採集した。

石川県におけるシータテハの生息は、白山周辺の石川県白峰村、石川県尾口村、石川県吉野谷村（いずれも現白山市）、及び金沢市において、いずれもオヒョウから幼虫が観察されていた。金沢市より北においては、河北郡津幡町、鹿島郡鹿島町石動山（現中能登町）、羽咋郡志賀町宿女で3頭の成虫が採集されているに過ぎなかったが、最近になって、鹿島町石動山や輪島市深見一乗、珠洲市清水藤尾に、オヒョウの生育が知られるようになり、シータテハの生息確認が期待されていた。

終わりに、常日頃から石川県の貴重な植物の分布についてご教示いただき、今回も藤尾のオヒョウの生育地についてお教えいただいた「能登の山を歩く会」の林二良氏に、厚くお礼申し上げる。

《 参考文献 》

江口元章（1991）能登におけるシータテハの記録. 翔(93)：2.

越虫編集部（1992）1991年の活動報告. 越虫(23)：1-5.

松井正人（2000）能登地方でシータテハの夏型を採集. 翔(146)：1.

松井正人（2003）石川県金沢市でシータテハの生息を確認. 翔(164)：2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

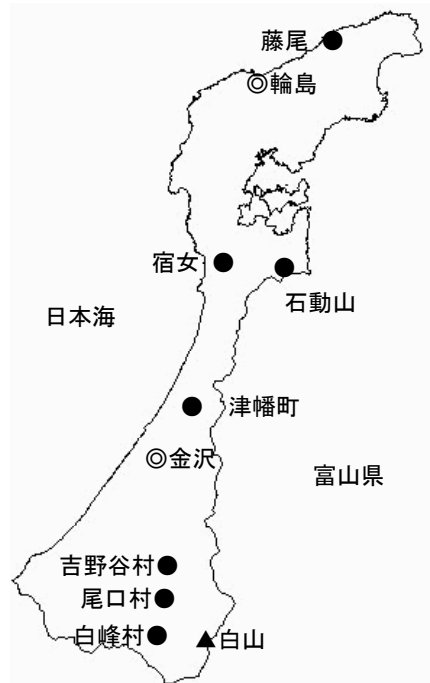


図-1. シータテハの観察地と生息地

石川県の大型セセリチョウ2種の記録

浅地 哲也

筆者が採集した大型のセセリチョウの記録を報告する。報告に先立ち、キバネセセリについて種々ご教示いただいた松井正人氏に厚く感謝申し上げます。

■キバネセセリ

2002年7月28日

石川県金沢市医王山西尾平 1頭 浅地哲也

当日は、家族で昆虫採集に出かけたところ、見慣れぬ大型のセセリが樹上に静止していたので採集した。石川県内のキバネセセリは、白山周辺と金沢市浅丘、津幡町浅谷から記録されているが、金沢市浅丘と津幡町浅谷の記録は、30年ほど前の記録で偶産の可能性が強いとされていた（松井、1998a）。このことから、キバネセセリの生息地は、白山周辺と思っていたが、2002年に金沢市犀川ダムで採集されている（久慈、2002）ことや、1997年に金沢市の犀川源流域で多数の空巣が観察されている（松井、1998b）ことなどを考えると、金沢市には、個体数が少ないながらも分布していると思われる。

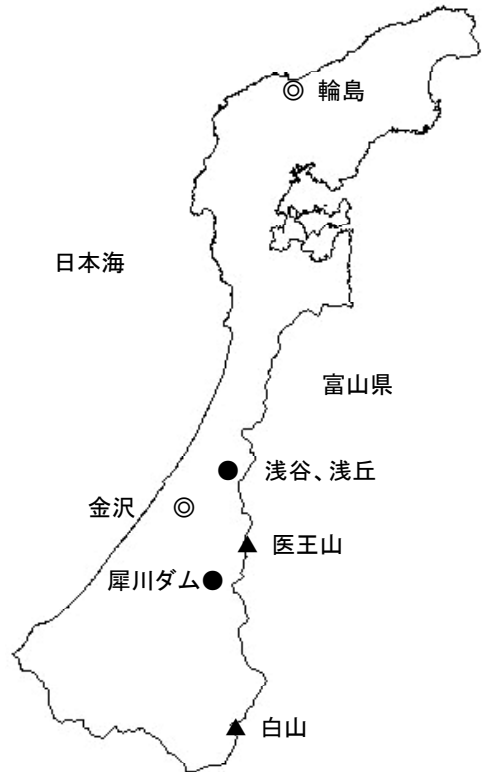


図-1. キバネセセリの観察地

■アオバセセリ

2001年7月20日 石川県能美市(辰口町)鍋谷 1頭 浅地哲也

2001年8月12日 石川県羽咋郡富来町中山 1頭 浅地哲也

2002年8月10日 石川県金沢市松根 1頭 浅地哲也

《参考文献》

松井正人(1998a) チョウ目蝶類. 石川県の昆虫:342-365. 石川県.

松井正人(1998b) 犀川源流域でキバネセセリの巣を発見. 翔(130):6.

久慈一英(2002) 金沢市のキバネセセリ. 翔(159):5.

《あさじてつや 〒921-8021 石川県金沢市御影町26-7》

2004年の石川県輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査

日吉芳朗・日吉南賀子

輪島市における私達のアサギマダラのマーキング調査は、2004年で5年目を迎えたが、2004年はこれまでになかった2つの大きな出来事があった。その一つは初夏の海岸でのマーキングであり、もう一つは舳倉島での分校の生徒諸君のマーキングへの参加が得られた事である。

■初夏の海岸でのマーキング

海岸にあるスナビキソウの花にアサギマダラが吸蜜におとずれるとの報(林・松井、2004)は、筆者には衝撃的であった。これまで輪島市でアサギマダラが現われる地点といえば鉢伏山、高洲山、宝立山のような、この地では高い山の頂上付近が主であり、散見することがあってもほとんどが山地で、海岸ではまれに飛翔しているのを目撃する程度であった。半信半疑で輪島市内の海岸にあるスナビキソウ探しを始めたが、これまで舳倉島で若干見つけていたものの、地元の海岸では注意することがなかった。小牧・他(1993)によると、産地として舳倉島、七ツ島の他に曾々木と上大沢があげられていることから、まず目をつけたのが町野町大川浜である。しかし、そこでは大川側の約1 kmもある浜の2箇所で見つけることができなかった。それは、5月26日の朝で、せまい範囲に点在して咲くスナビキソウの花で吸蜜するアサギマダラを見たときは感動した。以来、筆者はほぼ午前中の7～9時頃に大川浜へ出かけたが、1日数頭づつながら必ず吸蜜に来ており、鮮度は「新」または「中」で多くは破損していた。5月26日から6月10日かけて46頭にマークすることができ、とくにピーク時とみられた6月2日に12頭、3日に9頭であった。また、鳳至郡門前町よりある大沢町アタケ浜は、砂浜というよりは砂利浜といえそうで、そのごく狭い場所にスナビキソウがポツポツと咲いていた。このような場所でも6月1日に1頭、2日に3頭にマークすることができた。

なお、両海岸でマークした計50頭の個体はすべて♂であったことから、スナビキソウに含まれる♂の性フェロモンの原料となるピロリジジナルカロイドを摂取していることが考えられる。また、近くにハマボスの花も見られたが、これで吸蜜する個体は、1頭も見られなかった。なお、これら海岸でマークされた個体の再捕獲はなかった。

■舳倉島でのマーキング

筆者の一人が舳倉島を訪れたのは、6月4日の一度にすぎなかったが、民宿に委託してある記録ノートには、数名のバードウォッチャーによる記録があった。それによると5月20日頃から6月のごく初めにかけて、かなりの数の飛来があったことがうかがえる。これは例年の飛来が5月下旬～6月上旬であることとほぼ合致している。そうした中で、とりわけ注目されるのは、舳倉島分校の南 祐治先生をはじめとする先生方と生徒諸君が、6月1日に島内をまわられて5頭にマークされたことである。こうした行事的な試みは、これ

までなかったことで、理科学習の一環としても、ぜひ継続していただきたいと考えている。

■鉢伏山・高洲山・宝立山の状況

6月中・下旬から7月上旬にかけてのアサギマダラ飛来の特徴の一つとして、鉢伏山、高洲山、宝立山の3山に、この時期としては、これまでにない数の個体を見ることができたことで、マーク個体も10頭をこえた。

7月中旬以降では、鉢伏山にその姿をあらわしたのは、例年よりいくぶん早い7月15日頃からで、21日頃から次第にその数を増し、24～28日がピークであったようにみえる。その後、次第に数を減らし、8月2～3日に小ピークがあったものの減少の一途をたどり、8月7～8日には、ほとんどその姿を消してしまった。

高洲山では、その頂上で大規模なアンテナ工事が行われていることもあり、数は少なかったが、9月10日を過ぎても頂上下の「雨乞いの池」付近にその姿を見ることができた。

宝立山では、8月11～12日頃を一つの小ピークとして、その後一時姿を消したものの、9月上旬になりコシアブラの花が咲き始めるとともに、少数ではあるが吸蜜に現われた。しかし、中旬になると早々とその姿を消してしまった。

全体的にみると、本年も大集団をみることができなかったが、2003年のようなマーク総数が257頭ということはなく、3山でのマーク個体の合計は658頭であった。しかし、年々減少している傾向に、歯止めがかかったようにはみえなかった。

県外での再捕獲数は、以下の5例であった。初めて高槻市で再捕獲されたが、標識日が7月27日～9月6日と離れているにもかかわらず、芥川河畔で10月11日～10月15日に相次いで3頭が再捕獲されたのは興味深い。

表1 2004年の輪島市関係再捕獲一覧

標 識	雌雄	標識日	標識地	再捕獲日	再 捕 獲 地	直線距離
石ひよし352	♂	7月27日	鉢伏山	10月15日	大阪府高槻市芥川河畔	300km
石ひよし451	♂	7月28日	鉢伏山	8月20日	山梨県早川町奈良田越	235km
石ひよし569	♀	8月 2日	鉢伏山	10月14日	大阪府高槻市芥川河畔	300km
石ひよし668	♂	8月11日	宝立山	9月18日	群馬県赤城村赤城自然園	200km
石ひよし683	♂	9月 6日	宝立山	10月11日	大阪府高槻市芥川河畔	320km

最後に、舳倉島でのマーキングにご協力をいただいた上野台中学校舳倉島分校の南 祐治先生、並びに古倉 綾、古倉恵美、東野静香の同校生徒諸君、三井町興徳寺の三井中学校敷地内で捕虫されたアサギマダラについて筆者に連絡をくださった同中学校の黒田康夫先生に厚くお礼を申しあげる。

《参考文献》

- 林 宏初・松井正人(2004)石川県でスナビキソウから吸蜜するアサギマダラを観察。翔(168):1-2。
小牧 旌・他 編(1993)スナビキソウ。輪島市の植物目録:62。輪島市教育研究所。

表2 2004年の輪島市におけるアサギマダラのマーキング頭数

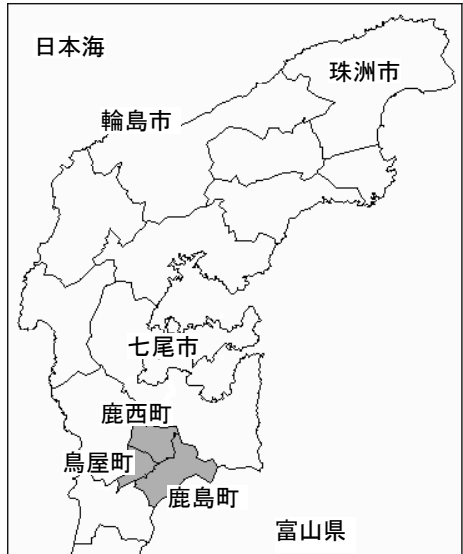
月日	計(内訳)	大川浜	アタケ浜	鉢伏山	高洲山	宝立山	舳倉島
5月26日	2(2♂)	2♂					
5月27日	1(1♂)	1♂					
5月28日	4(4♂)	4♂					
5月30日	5(5♂)	5♂					
6月1日	9(6♂ 3♀)	3♂	1♂				2♂3♀
6月2日	15(15♂)	12♂	3♂				
6月3日	9(9♂)	9♂					
6月5日	2(2♂)	2♂					
6月9日	5(5♂)	5♂					
6月10日	3(3♂)	3♂					
6月14日	1(1♂)				1♂		
6月17日	1(1♂)			1♂			
6月21日	1(1♂)			1♂			
6月23日	1(1♂)			1♂			
6月24日	1(1♂)					1♂	
6月27日	1(1♂)			1♂			
6月30日	1(1♀)			1♀			
7月4日	4(3♂ 1♀)			3♂ 1♀			
7月15日	4(4♂)			4♂			
7月18日	9(6♂ 3♀)			6♂ 3♀			
7月20日	1(1♂)			1♂			
7月21日	8(6♂ 2♀)			5♂ 2♀	1♂		
7月22日	30(19♂ 11♀)			19♂ 11♀			
7月23日	31(17♂ 14♀)			17♂ 14♀			
7月24日	46(31♂ 15♀)			31♂ 15♀			
7月24日	14(10♂ 4♀)			10♂ 4♀			
7月25日	97(59♂ 38♀)			54♂ 34♀	5♂ 4♀		
7月26日	50(31♂ 19♀)			31♂ 16♀	3♀		
7月27日	18(13♂ 5♀)			13♂ 5♀			
7月27日	25(20♂ 5♀)			20♂ 5♀			
7月28日	92(62♂ 30♀)			62♂ 30♀			
7月29日	16(15♂ 1♀)			15♂ 1♀			
7月29日	5(4♂ 1♀)			4♂ 1♀			
7月30日	10(8♂ 2♀)			8♂ 2♀			
7月31日	19(12♂ 7♀)			12♂ 7♀			
8月1日	17(15♂ 2♀)			15♂ 2♀			
8月2日	31(24♂ 7♀)			24♂ 7♀			
8月3日	20(19♂ 1♀)			18♂ 1♀	1♂		
8月4日	24(19♂ 5♀)			19♂ 5♀			
8月5日	13(12♂ 1♀)			12♂ 1♀			
8月6日	14(12♂ 2♀)			12♂ 2♀			
8月7日	4(4♂)			4♂			
8月8日	3(3♂)			3♂			
8月11日	8(7♂ 1♀)			1♂		6♂ 1♀	
8月12日	7(7♂)					7♂	
9月1日	4(2♂ 2♀)			1♂		1♂ 2♀	
9月3日	1(1♂)					1♂	
9月6日	5(4♂ 1♀)					4♂ 1♀	
9月9日	8(7♂ 1♀)					7♂ 1♀	
9月11日	2(1♂ 1♀)					1♂ 1♀	
9月12日	8(7♂ 1♀)		三井町興徳寺	1♂	1♂	5♂ 1♀	
9月13日	2(1♂ 1♀)				1♂ 1♀		
9月16日	1(1♂)		1♂				
9月18日	1(1♀)				1♀		
合計	714(525♂189♀)	46♂	5♂	429♂170♀	10♂ 9♀	33♂ 7♀	2♂3♀

《ひよし よしろう・ながこ 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

鳥屋町・鹿島町・鹿西町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

平成17年3月1日に、鹿島郡の鳥屋町、同郡の鹿島町、及び鹿西町が合併し、「鹿島郡中能登町（なかのとまち）」が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。



■合併後の住所表示

1. 鹿島郡鳥屋町

「鹿島郡鳥屋町」が「鹿島郡中能登町」に置き換わり、「字」が取れた。

表示例 鹿島郡 鳥屋町 字 良川
→ 鹿島郡 中能登町 良川

2. 鹿島郡鹿島町

「鹿島郡鹿島町」が「鹿島郡中能登町」に置き換わった。

表示例 鹿島郡 鹿島町 在江 → 鹿島郡 中能登町 在江

3. 鹿島郡鹿西町

「鹿島郡鹿西町」が「鹿島郡中能登町」に置き換わった。

表示例 鹿島郡 鹿西町 金丸 → 鹿島郡 中能登町 金丸

■新旧対照表

旧 名 称	新 名 称	よみかた
鹿島郡 鳥屋町 字 良川	→ 鹿島郡 中能登町 良川	よしかわ
鹿島郡 鳥屋町 字 黒氏	→ 鹿島郡 中能登町 黒氏	くろじ
鹿島郡 鳥屋町 字 一青	→ 鹿島郡 中能登町 一青	ひとと
鹿島郡 鳥屋町 字 末坂	→ 鹿島郡 中能登町 末坂	すえざか
鹿島郡 鳥屋町 字 羽板	→ 鹿島郡 中能登町 羽板	はざか
鹿島郡 鳥屋町 字 今羽板	→ 鹿島郡 中能登町 今羽板	いまはざか
鹿島郡 鳥屋町 字 春木	→ 鹿島郡 中能登町 春木	はるき
鹿島郡 鳥屋町 字 新庄	→ 鹿島郡 中能登町 新庄	しんじょう
鹿島郡 鳥屋町 字 廿九日	→ 鹿島郡 中能登町 廿九日	ひづめ
鹿島郡 鳥屋町 字 川田	→ 鹿島郡 中能登町 川田	かわだ
鹿島郡 鳥屋町 字 大槻	→ 鹿島郡 中能登町 大槻	おおづき
鹿島郡 鳥屋町 字 瀬戸	→ 鹿島郡 中能登町 瀬戸	せと
鹿島郡 鳥屋町 字 花見月	→ 鹿島郡 中能登町 花見月	はなみづき
鹿島郡 鹿島町 在江	→ 鹿島郡 中能登町 在江	あるえ
鹿島郡 鹿島町 西	→ 鹿島郡 中能登町 西	にし
鹿島郡 鹿島町 坪川	→ 鹿島郡 中能登町 坪川	つぼかわ
鹿島郡 鹿島町 久乃木	→ 鹿島郡 中能登町 久乃木	くのぎ
鹿島郡 鹿島町 武部	→ 鹿島郡 中能登町 武部	たけべ
鹿島郡 鹿島町 二宮	→ 鹿島郡 中能登町 二宮	にのみや
鹿島郡 鹿島町 徳前	→ 鹿島郡 中能登町 徳前	とくぜん
鹿島郡 鹿島町 浅井	→ 鹿島郡 中能登町 浅井	あさい
鹿島郡 鹿島町 芹川	→ 鹿島郡 中能登町 芹川	せりかわ
鹿島郡 鹿島町 石動山	→ 鹿島郡 中能登町 石動山	せきどうさん
鹿島郡 鹿島町 蟻ヶ原	→ 鹿島郡 中能登町 蟻ヶ原	ありがはら
鹿島郡 鹿島町 原山	→ 鹿島郡 中能登町 原山	はらやま

鹿島郡 鹿島町	井田	→	鹿島郡 中能登町	井田	いだ
鹿島郡 鹿島町	最勝講	→	鹿島郡 中能登町	最勝講	さいすこ
鹿島郡 鹿島町	東馬場	→	鹿島郡 中能登町	東馬場	ひがしばば
鹿島郡 鹿島町	尾崎	→	鹿島郡 中能登町	尾崎	おさき
鹿島郡 鹿島町	小竹	→	鹿島郡 中能登町	小竹	おだけ
鹿島郡 鹿島町	水白	→	鹿島郡 中能登町	水白	みじろ
鹿島郡 鹿島町	久江	→	鹿島郡 中能登町	久江	くえ
鹿島郡 鹿島町	久江原山分	→	鹿島郡 中能登町	久江原山分	くえはらやまぶん
鹿島郡 鹿島町	小田中	→	鹿島郡 中能登町	小田中	こだなか
鹿島郡 鹿島町	小田中原山分	→	鹿島郡 中能登町	小田中原山分	こだなかはらやまぶん
鹿島郡 鹿島町	藤井	→	鹿島郡 中能登町	藤井	ふじい
鹿島郡 鹿島町	福田	→	鹿島郡 中能登町	福田	ふくだ
鹿島郡 鹿島町	高島	→	鹿島郡 中能登町	高島	たかばたけ
鹿島郡 鹿島町	高島原山分	→	鹿島郡 中能登町	高島原山分	たかばたけはらやまぶん
鹿島郡 鹿島町	小金森	→	鹿島郡 中能登町	小金森	こがねもり
鹿島郡 鹿島町	曾祢	→	鹿島郡 中能登町	曾祢	そね
鹿島郡 鹿島町	二宮あおば台	→	鹿島郡 中能登町	二宮あおば台	にのみやあおばだい
鹿島郡 鹿西町	金丸	→	鹿島郡 中能登町	金丸	かねまる
鹿島郡 鹿西町	能登部下	→	鹿島郡 中能登町	能登部下	のとべしも
鹿島郡 鹿西町	徳丸	→	鹿島郡 中能登町	徳丸	とくまる
鹿島郡 鹿西町	能登部上	→	鹿島郡 中能登町	能登部上	のとべかみ
鹿島郡 鹿西町	西馬場	→	鹿島郡 中能登町	西馬場	にしばば
鹿島郡 鹿西町	上後山	→	鹿島郡 中能登町	上後山	かみうしろやま
鹿島郡 鹿西町	下後山	→	鹿島郡 中能登町	下後山	しもうしろやま

志雄町・押水町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

平成17年3月1日に、羽咋郡の志雄町、同郡の押水町が合併し、宝達志水町（ほうだつしみずちょう）が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。

■合併後の住所表示

1. 羽咋郡志雄町

「羽咋郡志雄町」が「羽咋郡宝達志水町」に置き換わり、「字」が取れた。

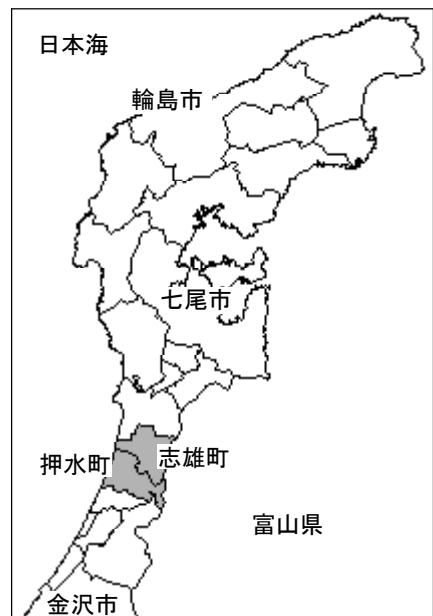
表示例 羽咋郡 志雄町 字 石坂
→ 羽咋郡 宝達志水町 石坂

2. 羽咋郡押水町

「羽咋郡押水町」が「羽咋郡宝達志水町」に置き換わり、「字」が取れた。

表示例 羽咋郡 押水町 字 東間 → 羽咋郡 宝達志水町 東間

ただし、羽咋郡 押水町 字 大海川尻 → 羽咋郡 宝達志水町 大海川尻（二99番地のみ）
→ 羽咋郡 宝達志水町 北川尻（二99番地以外）



■新旧対照表

旧 名 称	新 名 称	よみかた
羽咋郡 志雄町 字 石坂	→ 羽咋郡 宝達志水町 石坂	いしさか
羽咋郡 志雄町 字 海老坂	→ 羽咋郡 宝達志水町 海老坂	えびさか
羽咋郡 志雄町 字 荻市	→ 羽咋郡 宝達志水町 荻市	おぎち
羽咋郡 志雄町 字 荻島	→ 羽咋郡 宝達志水町 荻島	おぎのしま
羽咋郡 志雄町 字 荻谷	→ 羽咋郡 宝達志水町 荻谷	おぎのやち
羽咋郡 志雄町 字 下石	→ 羽咋郡 宝達志水町 下石	さがりし
羽咋郡 志雄町 字 散田	→ 羽咋郡 宝達志水町 散田	さんでん
羽咋郡 志雄町 字 子浦	→ 羽咋郡 宝達志水町 子浦	しお
羽咋郡 志雄町 字 敷浪	→ 羽咋郡 宝達志水町 敷浪	しきなみ
羽咋郡 志雄町 字 敷波	→ 羽咋郡 宝達志水町 敷波	しきなみ
羽咋郡 志雄町 字 清水原	→ 羽咋郡 宝達志水町 清水原	しみずばら
羽咋郡 志雄町 字 所司原	→ 羽咋郡 宝達志水町 所司原	しよはら
羽咋郡 志雄町 字 新宮	→ 羽咋郡 宝達志水町 新宮	しんぐう
羽咋郡 志雄町 字 菅原	→ 羽咋郡 宝達志水町 菅原	すがはら
羽咋郡 志雄町 字 杉野屋	→ 羽咋郡 宝達志水町 杉野屋	すぎのや
羽咋郡 志雄町 字 出浜	→ 羽咋郡 宝達志水町 出浜	ではま
羽咋郡 志雄町 字 走入	→ 羽咋郡 宝達志水町 走入	はしり
羽咋郡 志雄町 字 原	→ 羽咋郡 宝達志水町 原	はら
羽咋郡 志雄町 字 針山	→ 羽咋郡 宝達志水町 針山	はりやま
羽咋郡 志雄町 字 聖川	→ 羽咋郡 宝達志水町 聖川	ひじりかわ
羽咋郡 志雄町 字 平床	→ 羽咋郡 宝達志水町 平床	ひらとこ
羽咋郡 志雄町 字 二口	→ 羽咋郡 宝達志水町 二口	ふたくち
羽咋郡 志雄町 字 見砂	→ 羽咋郡 宝達志水町 見砂	みさご
羽咋郡 志雄町 字 向瀬	→ 羽咋郡 宝達志水町 向瀬	むこせ
羽咋郡 志雄町 字 柳瀬	→ 羽咋郡 宝達志水町 柳瀬	やなせ
羽咋郡 志雄町 字 吉野屋	→ 羽咋郡 宝達志水町 吉野屋	よしのや
羽咋郡 押水町 字 東間	→ 羽咋郡 宝達志水町 東間	あずま
羽咋郡 押水町 字 今浜	→ 羽咋郡 宝達志水町 今浜	いまはま
羽咋郡 押水町 字 今浜新	→ 羽咋郡 宝達志水町 今浜新	いまはましん
羽咋郡 押水町 字 上田	→ 羽咋郡 宝達志水町 上田	うわだ
羽咋郡 押水町 字 上田出	→ 羽咋郡 宝達志水町 上田出	うわだで
羽咋郡 押水町 字 大海川尻ニ99番地	→ 羽咋郡 宝達志水町 大海川尻	おおみかわしり
羽咋郡 押水町 字 大海川尻イ・ロ・ハ・ニ・ホ	→ 羽咋郡 宝達志水町 北川尻	きたかわしり
羽咋郡 押水町 字 小川	→ 羽咋郡 宝達志水町 小川	おがわ
羽咋郡 押水町 字 御館	→ 羽咋郡 宝達志水町 御館	おたち
羽咋郡 押水町 字 河原	→ 羽咋郡 宝達志水町 河原	かわら
羽咋郡 押水町 字 北川尻	→ 羽咋郡 宝達志水町 北川尻	きたかわしり
羽咋郡 押水町 字 米出	→ 羽咋郡 宝達志水町 米出	こめだし
羽咋郡 押水町 字 紺屋町	→ 羽咋郡 宝達志水町 紺屋町	こんやまち
羽咋郡 押水町 字 宿	→ 羽咋郡 宝達志水町 宿	しゆく
羽咋郡 押水町 字 沢川	→ 羽咋郡 宝達志水町 沢川	そうごう
羽咋郡 押水町 字 竹生野	→ 羽咋郡 宝達志水町 竹生野	たこの
羽咋郡 押水町 字 坪山	→ 羽咋郡 宝達志水町 坪山	つぼやま
羽咋郡 押水町 字 中野	→ 羽咋郡 宝達志水町 中野	なかの
羽咋郡 押水町 字 東野	→ 羽咋郡 宝達志水町 東野	ひがしの
羽咋郡 押水町 字 冬野	→ 羽咋郡 宝達志水町 冬野	ふゆの
羽咋郡 押水町 字 宝達	→ 羽咋郡 宝達志水町 宝達	ほうだつ
羽咋郡 押水町 字 正友	→ 羽咋郡 宝達志水町 正友	まさとも
羽咋郡 押水町 字 三日町	→ 羽咋郡 宝達志水町 三日町	みつかまち
羽咋郡 押水町 字 南吉田	→ 羽咋郡 宝達志水町 南吉田	みなみよした
羽咋郡 押水町 字 麦生	→ 羽咋郡 宝達志水町 麦生	むぎう
羽咋郡 押水町 字 免田	→ 羽咋郡 宝達志水町 免田	めんでん
羽咋郡 押水町 字 森本	→ 羽咋郡 宝達志水町 森本	もりもと
羽咋郡 押水町 字 門前	→ 羽咋郡 宝達志水町 門前	もんぜん
羽咋郡 押水町 字 山崎	→ 羽咋郡 宝達志水町 山崎	やまざき

について、その現状を把握し、保全対策が解説されているが、活用されないと意味がない。

「白水隆文庫」収蔵目録1

故・白水隆博士の約十万冊に及ぶ蔵書・資料のほとんどがホシザキグリーン財団に寄贈され、その一部の整理が終わって「目録1」が発行された。収録範囲は、単行本二千八百十八冊、国内定期刊行物二千二百四十九冊。

「むしのうんこ」で染め物

虫の糞を使って染め物をするといい色に染め上がるらしく、昆虫館に糞希望の依頼が殺到しているらしい。火付け役は、柏書房の「むしのうんこ」のようで、香りや形など、うんこの魅力を紹介している。

イカリモンとシャープが採集禁止

五月一日、イカリモンとシャープゲンモの二種が石川県条例の「指定希少野生動植物種」に指定され、石川県内では採集できなくなった。

ナタを持った危なオジサン

クロマダラの新産地が見つかって、息を吹き返しそうなタムシ熱。ナタを持ったオジサンが、エノキの枯れ枝を探して、ウロウロしだしたが、ラブホテル横のエノキに上るのは、ちよつと危ない。

ピカピカのエサキが羽化

タムシにのめり込んでいく浅地氏、ヤマト、エサキキーンヘリ、クロマダラと、きれいどころ、おいしいどころを飼育しているが、ヤマトはとつくに羽化したのに、クロマダラがなかなか羽化しない。気をもんでいると、エサキの羽化が始まった。

ゴールデンウィーク北海道野宿旅

指田氏、GWは野宿をしながらエゾヒメギフを狙った。日中は蝶が舞っても、夜は気温が下がる北海道だが、どれだけ寒くても、温泉に入り一杯ひっかけてシユラフに入れば、快適そのものとか。

網の変わりにツルハシを持って

ゼフの幼虫飼育に忙しい筈の細沼氏だが、連休は一家そろって岩手県へ。「網は持つてかない」と家族を納得させたいが、ツルハシはこっそり持つていった。

虫が寄りつかないライト

虫除けライトと言えば、虫を避けるために、虫が好む光を出して虫を集める罠に使われていたが、このライトは虫が無関心の光を出す。秘密はライトカバーで、虫が好む光を吸収し、人が感じる光は通す仕組みになっている。

例会の記録

四月七日(木)城南管工一階にて、午後八時から開催。

石川県から委託された二件の調査があり、富沢氏と竹谷氏が紹介。ひとつは、レッドデータのフォローアップで、平成二十年予定の改訂版作成にむけた調査。もう一つの調査は、蝶の生息状況から里山

環境の荒廃を捕らえ、熊の出没との関係を探る。

その他の話題は、ギフチョウの出足は遅い、トリバネでも迷蝶なら国内どこでも飼える、アカマダラコガネと鳥の巢の関係、きれいなトンボ標本の作り方、などなど。

参加は、井村、浅地、中西、松井、竹谷、富沢、細沼、山岸、生田の九人。

例会の記録

五月七日(木)城南管工一階にて、午後八時から開催。

初夏の海岸で観察されるアサギマダラについて、松井氏が紹介。昨年は三週間で三百頭程が観察され、今年も五月末に多数飛来が予想される。飛来するスナビキソウの生育地も分かり、調査協力を要請。

その他の話題は、エゾヒメギフを堪能、ルーミスはヤマビルにご用心、熊手で捜すオオルリオサ、時給四千円の昆虫調査、などなど。

参加は、井村、中西、松井、細沼、大脇の五人。

会員の動き・しゃばの動き

女神よりも早く起き出した
水温む三月、ヤゴダチ君と
川掃除に余念がない浅地氏、
ギフチョウでも飛ばないかと
狙っていたが、どでかい糞を
発見。昨年大出沒したクマガが、
早くも起き出したらしい。

うららかな日差しに誘われて
一番ギフでも飛びそうな、
うららかな日差しとなった三
月二十一日、今か今かと待ち
わびていると、ついに現れた。
まずはカメラおじさん、次い
でマスクおじさん、続いて続
いておじさん達が現れたが、
舞姫は見つからなかった。

舞姫を追い回すおじさん達
暇なおじさん達が今日も
やってきた。今日こそはのん
びり羽を広げようと思ってい
たのに、目薬、カメラ、マス

クの三おじさんが入れ替わり
現れては、そうもいかない。
油断したのがいけなかった。
早速カメラおじさんに撮られ
てしまった。

一番ギフの観察地を変更
小松の某地でギフチョウの
初飛を観察してきたが、全国
区で有名になり、毎年、県外
勢が押し寄せる状態となっ
た。ギフも少なくなり、春の
飛び出しも遅くなったので、
観察地を変える事になった。

四月一日から八重山採集行
細沼氏、ギフチョウシーズ
ンを尻目に八重山へ向かつ
た。一番狙いは、与那国のホ
リシャで、心のどこかには
タツパンの影もちらついてい
たらしいが、一日から五日間
も会社をさぼるとはスゴイ。

三月二十七日は確かに舞った
初舞の情報に、おじさん達
は一斉に繰り出したが、追認
できない。I、M、T、Sの
名だたるおじさん達を持つて
しても四月四日現在、追認ゼ
ロ。ギフチョウ恋し春の舞。

船倉島から子供が消えた
同島の小中学生がいなくな
って、分校が四月から休校
になった。釣り好きや野鳥好
きの先生が順番待ちをしてい
た船倉島分校、アサギマダラ
のマーキングも同校で始まっ
たばかりだったのに、休校は
まことに残念。

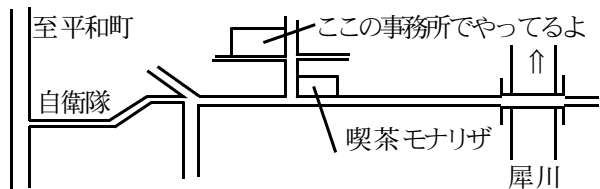
レッドデータブックの意義
県内唯一のアオモンギンセ
ダカモクメの発生地が、完全
に破壊された。同地区は、石
川県版レッドデータブックに
掲載されているが、国土交通
省は利用していなかった。
レッドデータブックには、
絶滅のおそれのある野生生物
や、消滅の恐れのある生態系

翔 174号

Tobu 2005年6月10日発行
百万石蝶談会

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (174号)

松井正人：能登半島でシータテハの生息を確認	1
浅地哲也：石川県的大型セセリチョウ2種の記録	2
日吉芳朗・日吉南賀子：2004年の石川県輪島市における アサギマダラのマーキング調査	3
蝶談会事務局：鳥屋町・鹿島町・鹿西町の合併に伴う住所表示の変更	6
蝶談会事務局：志雄町・押水町の合併に伴う住所表示の変更	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10